

認知症をテーマに府民公開講座 開催報告

～自分らしく生きるための選択～

H28年2月27日(土)

府立医科大学大学院の成本迅教授(現)から「自分らしく生きるための選択」と題しての講演と、在宅ケアステーションげんき管理者の大槻美智子さんから「病状の変化する利用者とその家族へのかかわり」について事例報告。

講演では、“認知症の人への医療処置について、どう意思決定していくのが”、本人と家族、医療・介護従事者が、それぞれの立場で対処する方法をわかりやすく説明。その後、参加者との熱心な意見交換などがあり、“自分らしく生きるために意思決定の大切さを学ぶことができた”など多くのお声をいただきました。



つなげ隊としての活動

【講演会の前に】

- ★脳年齢テスト 12名(定員15名)
- ★認知症DVDの上映
- ★認知症啓発チラシ等の配布

【講演会で】

- ★ペープサートの上演

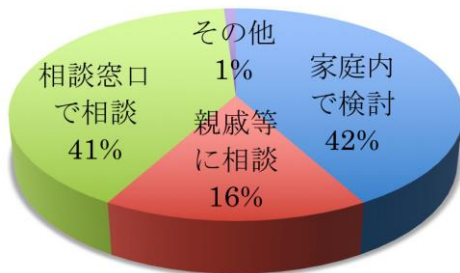
会場

府総合教育研修センター北部研修所2F
参加者 150名

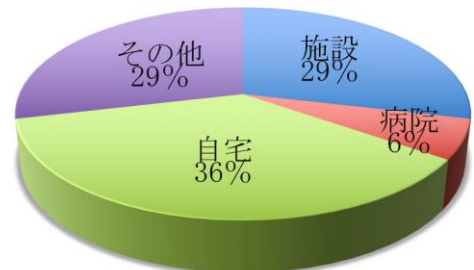
認知症意識アンケートの結果から

昨年、「食育・すこやかフェスティバル」「中丹“絆”フェスタ」の参加者を対象に実施

「家族が認知症かも？あなたならどうしますか」



「自分が認知症になったら、どこで過ごしたいですか」



回答者数 322名

家族に認知症の疑いがあれば99%の人が「相談する」と答え、「身内に相談する」人が58%、「相談窓口で相談する」人が41%いることがわかりました。たとえ家族が認知症を発症しても認知症の知識や対処法を知っていると的確な判断や相談先の案内ができて安心です。オレンジロードつなげ隊として、認知症の知識やさまざまな情報を提供するなど、啓発活動にこれからも取り組んでまいりたいと思います。

「若年性認知症交流会」のご案内

- 日時 平成28年10月6日(木) 午後2時～3時30分
- 場所 京都府中丹東保健所 (舞鶴市倉谷村西1499番地)
- 内容 ご本人又はご家族同士のグループで、日頃の思いや情報を話し合しましょう。(参加費無料)
もの忘れ外来の専門スタッフや介護経験者も同席します。
65歳までに認知症を発症された方であれば、原因(病気や事故等)や診断・通院されているかなどは問いません。
- お問い合わせ 舞鶴医療センター(0773-62-1710)・中丹東保健所 企画調整室(0773-75-0805)
参加可能な方は、9月16日(金)までに連絡をお願いします。
- 実施主体 舞鶴医療センター・京都府中丹東保健所 ■共催 舞鶴市・綾部市

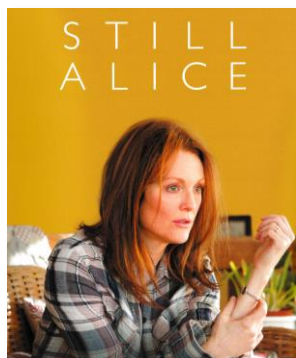
9月21日は世界アルツハイマーデーです。

オレンジロードつなげ隊は、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めるため、府民への理解促進を目的とした街頭啓発を9月20日～21日に綾部・舞鶴市内の3ヶ所で開催します。

■ ■ □ つなげ隊フォローアップ研修報告 □ ■ ■ 7月27日(水) サンプラザ万助

- 講 義：「効果的な広報普及活動は伝え手の顔・表情が見える」
- 実践報告：「オレンジロードつなげ隊の取組 ～地域住民への認知症啓発～」
- グループワーク：「オレンジロード隊の可能性 ～明日から取り組むこと、取り組めること～」
実践報告では、4地域のオレンジロードつなげ隊員から特色ある活動の紹介があり、中丹東地域は渡邊隊員がスライドとDVDを使って報告しました。

DVD紹介 主演女優賞受賞<ジュリア・ムーア> 第87回アカデミー賞受賞



アリスのままで STILL ALICE

全世界で1800万部を突破しているリサ・ジェノヴァのベストセラー小説を映画化。愛する夫と3人の子供に恵まれ、高名な言語学者としてニューヨークのコロンビア大学で教鞭をとる50歳のアリスは、まさに人生の充実期を迎えていた。ところが、そんなアリスにまさかの運命が降りかかる。物忘れが頻繁に起こるようになり診察を受けた結果、若年性アルツハイマー病と宣告されたのだ。手のひらからこぼれ落ちる砂のように失われていく記憶。アリスがアリスのままでいられるのは、あとどれくらいなのか。運命と闘うアリスと家族の葛藤、そして決断とは一。(約101分)

— 編集後記 —

このところ、認知症についての情報をテレビや新聞などで見かけることが多くなりました。今や認知症は私達にとっても身近な脳の病気です。『もしかしたら認知症かも?』『まさか、自分の親に限って...』そんな不安を持っておられる方々に、正しい知識をもってサポートできればという思いで啓発活動をしています。ひとりでも多くの方の不安が安心につながりますように...
《編集担当班》

発行：中丹東オレンジロードつなげ隊

【事務局】

京都府中丹東保健所

企画調整室

中丹東地域包括ケア推進ネット
中丹東オレンジロードつなげ隊

心でつなく、地域でつなぐ
“認知症”

認知症になっても安心して暮らせる
社会の実現をめざしています

オレンジロードつなげ隊 隊員紹介 1



綾部市
村田 真理子

綾部市にある「松寿苑のグループホーム」で日々ご利用者様と楽しく過ごしています。私はオレンジロードつなげ隊の一員として、イベント等に参加させていただく中で、地域の方々と接する機会ができ、認知症に関心を持たれている方が多いと改めて感じました。

より多くの方に認知症について理解していただくとともに、『認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる』そんな地域づくりにつながる活動ができればと思っています。



綾部市
雨林 恵子

グループホームうえずぎで働いています。日々の仕事を通して、散歩・買い物・料理と一緒にすることで、ふとした時に見られる利用者様の様子から学ぶこと、楽しさ、心温まる・・・等、いろいろな場面に出会いながら楽しく働いています。このオレンジロードつなげ隊の活動を通して、地域の方に少しずつ認知症のことを理解してもらい、これからも安心して暮らしていける地域作りをしていきたいと思っています。



舞鶴市
南部 久美

私は、人生の折り返し地点をとっくに過ぎ、残された時間を心も体も健康で、好きなことだけしようと考えていました。これまで、看護と教育の仕事をする中で、多くの方に支えられ助けられてきました。このオレンジロードつなげ隊に参加させてもらって、隊員としての活動の中で認知症のことについての研修を受け、認知症は他人事ではなく高齢となった自分の問題でもあります。すべての人の命が等しく尊いことは言うまでもありませんが、一人ひとりが日常生活を無事過ごすことができる社会を作らねば・・・という思いで隊員の皆さんと認知症初期支援の大切さをアピールしていきたいと思っています。



舞鶴市
崎山 弘

私が定年退職を迎える4年前まで、母が病床の父の介護をしていました。父の他界を機に、母は認知症となり、中には「お地藏さんにお参り」「知人の家に行く」と出かけて、妻と探すことも多くなりました。深夜に徘徊する母の後を一時間近く歩いたことなども懐かしく思い出します。このように大なり小なり経験の違いはあるものの、介護される方の気持ちも少々わかっているつもりであります。在宅介護されている方は大変苦労されていると思います。皆様も「苦労」を「苦勞」と悩まずに楽しい人生に切り替えられることを望みます。



綾部市
寺尾 智子

私は綾部東部地域にある「グループホームいこの村・とくらの家」で働いています。とくらの家は「自宅での暮らしの継続」を目指しています。支援をしている中で認知症の方は、環境を変えないでいることが安心して生活できるポイントの一つだと思えることがよくあります。そのために、自宅での生活リズム（起床時間など）を変えないように、とくらの家でも同じように過ごしてもらったり、家具を持ち込んでいただき自宅と同じような配置にってもらったりするなど工夫をしています。認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせることは大切です。地域住民の方に認知症への理解を深めてもらい、皆で認知症の方を支えていけるよう啓発活動を頑張っていきたいです。



綾部市
安達 一男

オレンジロードつなげ隊に参加し、活動に少しずつ関わりを持たせていただき、一緒に活動する人と会う機会も増え親しみがわいてきました。認知症になっても安心して暮らしていけるまじになることを願っています。つなげ隊はこのことを強く願っていることを皆さんに理解をしていただき、これからの超高齢社会で優しく声掛けができる人の輪を広げることが役目と思っています。平成28年度の啓発活動に向け、昨年より成長できる様子を願っています。また、ペープサートを通して多くの人に認知症を理解していただけるようになりたいものです。そのためにも積極的に参加することなのです。



舞鶴市
渡邊 拓馬

私は、東舞鶴にある「オンブrajジュ矢之助」という介護事業所に勤務しています。「オンブrajジュ矢之助」では「通い」を中心に、「訪問」「宿泊」を柔軟に組み合わせ、いつまでも、住み慣れた地域での生活ができるようにサポートしています。また、身近な相談窓口である「認知症あんしんサポート相談窓口」として、専門の知識をもったスタッフが常駐しています。認知症になっても、安心して生活できるように、関係機関や、地域の方と一緒にサポートしていきたいと思っています。



舞鶴市
久保 寛明

東舞鶴にある「地域密着型特別養護老人ホームグリーンパーク愛宕」で生活相談員の仕事をしています。認知症は誰もが患う可能性のある、身近な脳の病気です。このオレンジロードつなげ隊での啓発活動、アンケート、イベント参加を通じて、認知症について興味のある方、もっと認知症について勉強したいと思っておられる方が、舞鶴市内にも沢山おられることを知りました。そういった方々に、つなげ隊の活動を通じていろいろな情報を発信できたらと思っています。当施設でも、地域の方々へ向けての、「認知症あんしんサポート相談窓口」を開設しています。気軽にお立ち寄りください。



綾部市
植田 均

オレンジロードつなげ隊でいろいろなイベントや催しに参加させてもらい、いつまでも、安心して生活が出来ることを望まれていることや、その為に、住み慣れた地域で見守ることの大切さ、幅広く伝えて行くことの大切さを学びました。以前、パジャマ姿の男性が徘徊されているのを見つけ自宅に送り届けた時に、捜されていたご家族が「会社に行けて良かったね」とご本人の言葉を否定せず、また、ご本人の思いに寄り添った対応をされ、これが認知症の方への対応だと感動したことがありました。今後も高齢者が増えていく中、身近な人とのふれあいを多く持ち、オレンジロードつなげ隊の一員として認知症に対する理解を深めていきたいと思っています。



綾部市
塩見 百代

私は、綾部市にある「介護者家族のつとひ豊里つづれの会」の介護者家族サロンに参加しています。ここは、平成24年6月に介護をする人たちの交流の場として発足しました。スタッフは、「生活・介護支援サポーター養成講座（通称「ゴールドサポーター」）を終了した有志と民生委員です。参加者は、認知症、障がい者、寝たきりの方のほか、ご家族や地域の方々です。季節の行事、歌やゲームなどで和気あいあいと楽しんでいます。このような場を設け開放することによって、特別の勉強会というものではないけれど、地域の方々の認知症への理解が深まりました。このことから、特別な事をしなくても、寄り添う気持ちが大切だと感じました。こういったことが、「オレンジロードつなげ隊」の根本だと思っています。今後も安心して、地域で生活が続けられるように、見守り、寄り添い、思いやる心を大切にして、精一杯取り組んでいきたいと思っています。



舞鶴市
村上 貴子

一般に「グループホーム」として親しまれている認知症対応型共同生活介護施設で、介護職として、日々認知症の方々と関わりを持っています。「認知症あんしんサポート相談窓口」の開設の縁あって、オレンジロードつなげ隊の隊員となり、活動に参加させていただいています。実際には、自宅で生活されている認知症の方々との関わりは少ないのですが、認知症の方にとって、住み慣れた家で生活を続けるには、ご家族や身近な周りの方々の協力が欠かせないと思います。地域の方々に、認知症に対して少しでも理解していただけるように、また、協力や助けになる声掛けや見守りをしていただけるような認知症啓発活動に、微力ながら取り組みたいと思います。



舞鶴市
大西 恒匡

初めまして、舞鶴市内において「高齢者と介護家族を支援する会『くら〜く』」を立ち上げ活動しております。高齢者や介護者が笑顔になっていただけるような地域住民参加型有償福祉支援です。認知症については、実父母と義母を見ました。それぞれタイプが異なり多少なりとも学ぶことができました。今後は多くの方々と出会い話し合うことで学び、アドバイスできるよう活動していきたいです。ケアライフサポーター（民間協会認定資格）を活かして介護の入り口でのアプローチも実施していきます。気軽にご相談下さい。

オレンジロードつなげ隊は、認知症を正しく理解してもらうための普及啓発を企画・実施するために結成しました。舞鶴・綾部市内の介護事業所の職員やボランティアなど現在27名の隊員が各イベント等で認知症の正しい理解につながる脳年齢テストやペープサート上演、リーフレットの配布等の活動を行っています。

隊員を順次、紹介させていただきます。